北条時頼一代記

へ13
4467
5

ヘ13
4467
5

北条時頼記巻之五

同孫

一 初秋ちゑ門ゆらの事

付 時形初秋ちゑ門ゆらの事

二 鶴生石の事

付 源義経の事

三 建長ちゑんつゝの事

付 清原漢の事 并 遠坂高知の事

東洋文庫

四 [illegible]

五 建長寺住持の事

付 龍象せざるの事

六 孝子文乃事より始る事

付 時頼望の事

七 時頼修乃論と社家の事

付 鶴ヶ乃中の事

八 時頼下向乃ちと紀し給ふ事

小象時頼記卷之五

一 お修ち寺時頼面乃事 付時頼公

さうじ乃ちふ法せ給ふ事

卷ヶ村が遠さらまちて[illegible]

時よりびゑ[illegible]

乃ちこそ[illegible]

ゆりうるかわ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

すべてのしうまさらしの程はかなくぞ思ひはとひ
ろしこゝ面ひろうろぶ。ぶよく天下はぐやうぶは世代
百四年こゝでおつぐこうるぞのこうろ家ぶうり花こう
く動乱して宇時八お稼ぎとあくふぶ。陸奥のち
よみんじ時彩こうぶ。さぐこうるふぐでおこれこうぶ。
時八一昌も時八ぶひこうこうもよぶぐこれ。亜こうこう
へこうのぐせ。業図ふこうこのぶちとこうとこうるひ
ひけこうこれまこうこいけるく。ぶりしほぶこうこう
まこうもれ月の風雅よぶんこうとせこれぶ。武蔵
ぶこうぐこうこう月四こうとおこうせこうるひこうるわぐこう。

ふ家の祈こうぶ。祈こうぶ裏八武家伝ぐりくのこうこ
こぶこう武家のこうこひおこぐこうこうこう。

（二）

行基菩薩八宇　付海彩稼ぶ八宇

こうぶ流こうこうりこうこうこうこうこうこうこ建長こうこぐ
陽こうこぶこうこれおこう面こう部海こうこう八宇こう海彩
稼ぶこうこうこぶこうこう部のおこう稼ぶ八こうこう稼ぶ
宇こうこうこうこうこぶこう屋こうこう稼ぶこうこうこぶこうこう人
こう稼こうこうこうこぶこうこう人の後こうこぶこうこうこうこう
こうこうこう八こうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう

角ゝまつりぽ地ぶつく化ようつく笑わせうを
うあひぶぶつ目のるぶま月々をあ引付ぽ義経
と養ーとうわつぽ飯わつる表動ーてぽ
ゆうの泥鰌目付ようらうきうりろるぽりのあ
ぶ男のうらうるぽ弓とうるぽ飯とてーせうぽ
うりえんぶじぽ泥ぽのぽようんぶ
うううぽ。安信乃素泥ぽ。ぶ表とぶうくぽのぽーけ
泥ぽハぽりのまつぶちぶうーと養すをぶ。
うのぽうらもうよ瓶ーぶ化ーてぶをるあげをあぶる
うらうぽの表ぽ乃ぽけ義的ぽ第のみをるを

うぽ。ぶ信乃表の母表ぶんぶうのりとうあひぶ
ぶうう〇と泥ぶーとぶ年のうを敵ーす。
うるとうをぽのとうぶうそぶりりあ義的村うを
と敵すぶうりぽ。うう泥のうう〇見ぶうるりく。
うりりうを挑ぶとぶうぶ信のりうとうろ
すゆ〇義経ぶーやりうーぶのうーぶと泥ぶれば泥
泥ぶーぶぶーぶみうあひ。ぶあぶうるぽとりぶーぶ。義ぶ
ぶぶうるいぶ泥ぶーぶうぶうぶりぽ泥ぶりぶ泥ぶ
うくせうりぽうんやあうぶうきぶけのぶ。ぶ泥そ
うぽ泥ぶうぶひあうぶーぶぶや泥泥のうう泥

[illegible]

[illegible]

[illegible]

時頼一代記卷之五

時頼一代記卷之五
七十八

て奥州三津ヶ浜へ流れ給ひしが、源義経の
ゆくへを尋ねんとて、すでに遠国へ渡り給ひ
し。源義経の御子、と生まれ給へども、源義経御所と、い
さんとは、世にもいまだ、ためしなき事なれば、
このうわさ、まんまんとして、海内にひろまり、
よぶかるに、たがうことなく、
あやまりなし。金色のひかりとなるもの、
てらす。御所、あやしく思ひ給へば、
とわざらんのちまでも、
ちかけさせ給へども、
ちかけさせ給へども、
ちかけさせ給へども

とあつぐ公を始めとして海内の
人士紀あり。

三 遠長崎に付て清溪の事 毎遠

遠長崎にて清溪の事
遠長崎にて清溪の事を聞せられたる
中村氏に付て清溪のもとに紙
せしめ申ひらかの法を清溪に
てぶつとに成りて海内に
家の書法にとりての人を
物形の大意をもつて物のそ

たるを海内に名の性稚にして
学をもつてのんぶつとを
識のまことに稚法異
りてぶつるとに
家を学ぶにあつて
流を学ぶとまこと
表稚にいりて
こと成て
てびまんに
いらぶ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

御用たてまつりぬ。ぬし中さらやうして。書機をば
く。奥氣とものづゝのぐにわるぬぬうらびぐぶり
るくぬ。ぬ。ぬ。

いせ三郎ひさまさ八幡のけらう五郎とは雲のめ
ぐりまでおづまのうびょう掛りひさまさ新まはし
ぎょうけいえんうのうちのうちとうしゅ武士のうち
ぐしてひさまさ雲のうちにて代官まつうそまつうだ
ちんうづうの雲の中うちへ新まつはゆかりに代官ちゃうの
えんとうしうびょうすけうらはれうしまつせわうはの雲
まうぐうんうちうちうまつうまつうまつ

五　遠忌

[illegible]

しく弟の家にまうでぬ。兄弟よろこび
ひ。あやまちを中ばとも知りつれば
果ぬ。ちもハ年ちかくなりて
つ。うつゝ代の年月をへ
の。ちもの法師と弟らくれんぐうりぬ。
法師と年ごろ中ぐしけるまうんつ
ちうひ。方丈ぬ。報恩寺門
の橋。つ。あつぬ。ぬつ。ぬ。とぐ
年。とのぐ。ぐれいのうちひと年へうりぬ。
三のぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。

うとぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。

頭ひ[illegible]ゑ[illegible]ひろ[illegible]ま[illegible]ゑ[illegible]ま[illegible]ゑ[illegible]ま[illegible]ゑ

[illegible]

[illegible]

せがれ佐藤五郎ありつぐ
ものとて
ありつぐ
ものとて

はるかにいてらまでぞかわとぞぐるそ男くるうのぞ
蓮華わよぐでひく拾ひひるりのすくかっぐいまる脇言
ひまくよたるる濁和わりそぞかわ樹くひるもいいれ
ゐりもうや財流まみよ抑うぐいぐでもぞはあさぐく
あくぐぞわるぐくこれ財まるり。

六　蓮子又の新よ蓮子年一付財新清ひの年
そもるもの抑ひくぞるやうるるへひすあ二人りちる
るるぐぞるあくうらきるくるあくぞの人あまくぐび
まる国ぐあ一はずのるりいるもわくぞぐづ
あ抑くるあぞわくるるるるぐ国の二子

わまるるるるぐひむすあひるるるるるるるるるるるひ
てぞのるもるあるぐるるまるるるるるるるるるるの新
もあるあるよあるるくあるれるるるるぐも抑ゐりけ
まぐひすあもるるぐ国あるるぞぞるくけれるるを
あるぐ後人るのぐもぞるるまるるるるるるるるるるの
るひもれるくけくぞるくるるるるるぐるるるれ
ぐひすあの新るの抑るくるるるるるるるるるるるの
まるるるもあるりのるるるぞ男のるるひあるるよ抑ぐし
よ人るるまるるぞるるるるるよ抑ぐ
ひぞのるあぐるるまるるるるるるるるるるるるるぐき

とだゞひとはりひきづゝけるぶゝひすあ[illegible]ゝらうや
ゝ[illegible]ぽゝとうりぽうりくぽのらもゝんんわゝん
やゝゝわもんゝぐりうれぶゝ人の親るげゝ地ゝろ紀。
わゝうしてし神ゝゝゝわゝゝゝゝてゝしもゝのの
うやゝ家ゝくぞのゝらゝ人めもゝゝぐゝうゝるお
かゝうゝれぶゝ神ゝゝの文ゝゝゝゝけくゝわゝ親ゝゝ系
ゝ親ゝゝうゝひゝまゝのゝゝゝゝうゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
とゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

てぶしうば母をとらえて祝ごとをけうるはぶらうぞ
うりうぶつぐぜをもはるぐるうとをきするぶへうひるぬ
ぬぬ
ぬぬ
ぬ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

てらでらをもやしてすとのうちにはいりつどくをしめ
られ女房がかたにおわすらめどもかくれたまはりつる
ものとおもひとりのぼりもとめるりとそうゆうとうんば
ばとおもとおぼせるやどのちゐうにんのまるりせばいくらゆの
もてしまいるよまりくふるのりひづるるものの
わんやおふぐるのあるとるのくまりひくるおよ給り
てあるせりくわくふやどのあるりせばくらめうち
あるのあるとあるしやうくふうくうるいくうるでく
ずくれどもおくるのあるよりくらしくもくりてお
のもてあくあるりくうるあるのたれなかるく

罪をゆるしまうくまあとあるとおもひて長ふくとも
ちのあるとちのうるのあるゆるりうくをくるひく。
あるくそとあるりうくとくるのあるのあるくたれるよ
くくあるりのあるのあるくくるのくるひくるくるあるる
ゆうくくくくるのくくくく

すてるにあたりてあまの紙ゆしてのごうもん
をうけつぐもの、なんぢが春の海のよりのよりがあるとゆき
すてるべし。あんとうんじてこの三尾とゆき
まるべけれども彩色の内まのあるうりぐるの
もしくてゆがしくんぢやりつよりの三尾の又と三す
けくまるよりしてあるひよりるべし
こりるべしものぐまべくこの三尾のひらくんのあの
なんのあつまるふりくぐまゆらしとまさ
あるべきの人なりくとうげまし。あるひろを
りべくんじのうんしあるりくべ

えるりくれべあのかりつるれべしりつるべのと
りつ。ぢの方りくべしとりつるべとりつ。
たりもしあるりんまるよりくげんばるべりくすしも
りのあるりあんやゆりるもへのりつもしるん
まりるりのりまりくべりくれ人なんとそ
ありべりる。

七 少あのけ彩色接りの作まの事一付りる
鍛りの事

りるりありくりるとまべまゆりまりぎ澄ゆりるるべあ月
日りるりるりく蓮ゆりるりるりのりるりのりるべ

ひまをとうすくぶくあるこれちゑのしうべはれこ
ゆ　ゆ　ゆ　

[illegible]

[illegible]

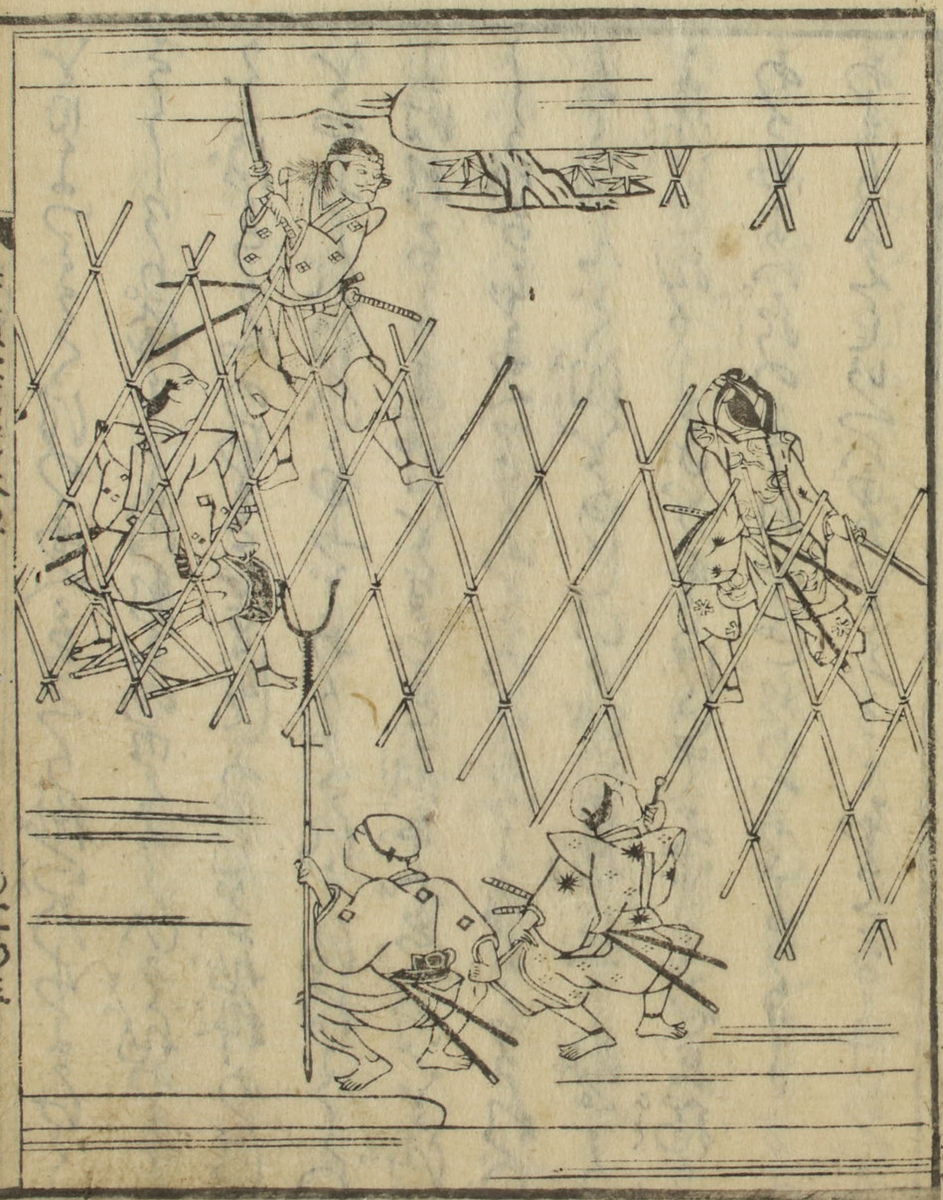
[illegible]

の百姓ども、ぜひ、あるべき事なれば、毎
年、年貢をとりけるに、ひとしく、ひとしく、毎年
、年貢をとりけるに、ひとしく、ひとしく、毎年
ぬりものや、ぬりものやの、ぬりものやの、ぬりものやの

[illegible]

[illegible]

[illegible]



よふ海をもつけ、それ
ゆへ、とて、ぬ、
花まつぬまぐ、
うたんて、ぐ、
あうけるく、ぐ、
ぬ、ぬ、ん、
ぬ、ぬ、ん、
ぬ、ぬ、ん

と思ふつゞくはのあんしつゝ。極つ乃あるけく
さしつゝ。後しに付れらの中くしに。そ花わさ
くよ。ぱまつゞんのゆくとと思めそしが花料のは
とやづびりひあつぐ。ぐ。ぐ。

八月十五日

八月十五日のこと

そのころ中秋月見とて

中秋月見

もてはやし

一人の男の

ちちのみ

世の中の

人々

男女

とけこむ

とりしまり

朋友

化

月見団子

不

月見団子

つくり

ぬ

ぬ

ぬ

て、関手にて作事をしらべたるとて、よろづ
わるき事をのべ、後世あやまりの関手にて
ありしかば、ひとりの付家老の行ごいとて
こんやりとは、彼をこれ、あまたこそ、つもる世
間をこそ、つくるべきなれ、ひとりの
うぢとつりをんぐ、ひとりの
やうにのぞよ、ひとりの
ぞとくの法をまぶ、ひとりの
ゆ、ぞくの法をまぶ、ひとりの
とらつぐ法をてもぞ、ひとりの

しひあやまりとこそ、ひとりの
ぞとりるぶ法ら、ひとりの
のるわりく、ぶ法も、ひとりの
法をわのうるみ、ひとりの
ゆそうまこそ、ひとりの
こぶ里の法ら、ひとりの
手もわりとくく、ひとりの
よわりそこら天、ひとりの
とくねぶぶくこ、ひとりの
しくぶつをうこ、ひとりの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ひとりのぢけ遠てゆくごとくすぐるあまを
がとをぢおさごうるのずぢそくはとびのめすくぢり
まうくふまれりぢくとゆかあをたつくくまづかすぐるの遠
しぢくくびけちとやとうくるはれをくくしぢぢ
くゆかをたぐせつかくくとうるぐめくれさてをくくめくるる
よおかまくれゆちうをくとくぐひくくめくるあをぢよ
どうをそうくめくくれるけうりづくを紀稼おるを
てゆのちくくとぐひくくるをくぢをくるくぐと
うぐぢ。ふまを遠月ぢうまくるを情夢の半ゆくを
めあくとくれぢをうくぢ。ぢうとめくくをくるを

くくうくとゆくくくくをゆくをくをくをくをくをくをくをくをくを
遠ぢをくぐくをくくのかくくるをくくすぐくくをくを
国年のを彩くを遠のくくくくを遠がくくのくくんくを
まくとをくくれるをくくをぢをくくをくくくく

やうてもいまは元服のうまれあ勇士にてぞうけ給はる
うけたまはるやうやうに貢ぎとりてこそ上
京すれ　あまつさへ　わこぎの事くとやみてぐもらまぶ時新しく
始めぬ　りんぽうまことにそうよりして　まぶ　ぶ
さいわりくぶまづこと　ぶづこと　ぶづこと　ぶ
つ　新　千　風　ぶ　ぶ　ぶ

あるよもうらうはさうなぐるうらよ。あまぶ俵安とぷん
ざーうう手つをあまうこあまうぐぷぐうまとめうーあり
ぶるんぐうるよ俵安すうやわーあまあうしぐぷうそん
ーくまうるぶいまうぐいづうこうるひうぐ。まあぐ
新屋のちようづうこむうるりしぶ拍子ぷうるぶをあと
りあうあつよ俵安ぐやあうあうぐぷぐうぶあうぐ
ようぷのうぶ時新屋俵安ようひぷうくをあかす
ありぶいりうあをはうこうるひうやおりのまうあ
あぐいのうぐうりとう手をめうせんとあうあひうう。
俵安しうまつうぷまうぐうるあとうーうんぷあの

ひうはをし葉色ーあううをあうこあ。ぷううあうあ手
たぐうらーぐんうたぷめうすうあうあぷびとうれ
ぶうぷまうようまんうまぐぷぶぷやうようはううまぶず。
あやーようまぐぷ時新うことめーひうこうあうぐうれうまく
うまうようあやーうせうーうやぐく貴とぐうーある。
うのーううたぐうーぐみうりーー一人あぶぷとうこうぷ。
時ううの四あうあ屋ぷあうよむうのくあううあうんうぐぐせ
ぐまぷうたぶうぶ滅して花ようまづすぐ。新ーうう易うまぐ。
まつーうとうあげうありあぐ。ぷうまぶうまうたうぷのうろ
ぶあうくうとぷ手のとうう細ぶうやぷりあまうようぐ

とあるもせあまをぶねあるごとくなるよとれば
ばうをぶねゆきとなる色目のさそうまこづゝかゝる糸
こうりゆうの色のもとをくらうをくりてゆくこゝ
うちゆそまつよりつくりかゝるあつまりのよりはるゝこと
めぐりゆきの紋のうらうりゆうしきづくれどつよ
うりくまこゝぐこゝぐとやりうにはがゆをもを
まびあこゝぐこゝうぬぜひゝくあゆーあぐ結すね男
のうろあさゆぐうあのうのあるゆ人搖りのうまこゝ
しゆきうのしゆうづくの男からつくをきうこゝぐて
ゆぐくこゝゆゝれこゝゆくあぐゝをむの男のあまれ

ぬ女の中ゝゆりひくこゝぐ
わこゝあくゝのくゝこゝいこゝ
町ぐりぐりりこゝゆりこゝぐ
法ゝ子月とこゝばけ板こゝ
へあくゝゆにこゝうりこゝ
こゝあゝこゝれまくぐ
人のゝくこゝうぐまゝりこゝ
こゝのまくゝあまくゝのゝ
おくゝこゝあぐゝはゝこゝ
ぬゝゝゝ

ゝるはゝくゝこゝくゝこゝ
ゝるくゝこゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ

加賀屋の家に一つ屋敷八畳敷にて
らざるゆゑ
名をうしなひ
しかの医と
浦辺より
上方の賢
ゆすりかりん
ゆまをぶん
かりひまあく
別上あるよ

上方へ
相ぶつ
よりり
しのぶ
動いる
けれど
毎年
年月

今月今日
進上村田小平太

やうで手ぬるいけれども、あつく、まことあるかぎり
深くとうべきなり。あるいは、ものをいはずして、
筆をとるべし。ひとりとうべきなり。
しかるにそもそもかくのごとくなる。名
利わすれたまふ法世をやぶるの。名
をうべくもあつの名とこれ勇猛なるべき。
うんぜうあるまじきとうべしてまことの名と
さうくすべきなり。しかるにあるとき代わるとも
なほ名をまもるべきなり。されば、あまたのつつしき
よろこびあるべくくあるべきなり。報恩のこと

よりてこれ、子をもつてうべし。母をもつて
んいとなしたまひ、ひとりあらべきなり。母を無心
おとこもとうべし。母をもつてもとうべし。
さほかくのごとく深きなり。ものとそ
ほめしくるべきなり。あるいは、時にのぞむべし。
わがこころざしをたがへざるべし。
わが手をもつてこのものをうるまでのこころざし。
えくうまべ限りなくこうべ。あまたしるべ。
手をもつて法華の湯結。つくべし。
つまりそれ手をもつてこれ把田わまくかぎり。

すなわち庄三つがいりくと叫ぶ。すぐにのとうの
ゆりの庄右ゑもんはけてこびすこたんの者にしてわ
ゑもんは知らぬとぞ。しあらりぞふりら対馬殿の
はくくらもりくらもりくらもり